



JCLIFE

2022年
12月号

JCI 一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL:0848-20-1110 FAX:0848-20-1112 E-mail:ojc@urban.ne.jp Facebook:<http://www.facebook.com/isojcnw>

11月例会

11月例会は若手と先輩会員とで、コミュニケーションを取ることを目的としたワークショップをしました。コロナ禍による影響により、委員会の垣根を超えて会話をする機会が失われてきたため、「多くの人と出会うことは人生を豊かにする」という委員長の想いをテーマに、会話の機会を創出しました。結果話したことの無い人と会話することで、関係性を持つきっかけを与えることができました。



マに、会話の機会を創出しました。結果話したことの無い人と会話することで、関係性を持つきっかけを与えることができました。

た、例会中に、新入会員の紹介ムービーを流しました。会員の個性が伝わる動画で、これからの青年会議所を担っていく頼もしい若手が加入したと感じていただけだと思います。最後になりますが、今年一年間拡大活動に多大なご協力いただき有難う御座いました。

(記事：会員拡大委員会委員長 沼尾 一)



バッジ授与式

令和4年11月16日、尾道国際ホテルにて来年度入会される新入会員の9名の皆さんへのバッジ授与式が行われました。



1名は社業のため欠席されましたが、事前のリハーサルでは笑顔もみられとてもリラックスした雰囲気を感じられました。



その後の新入会員が一堂に会し壇上へ登壇する際にはそれぞれ緊張の面持ちが見られました。

今岡理事長が登壇されバッジ・ネームプレートを一人一人に授与するときの新入会員の顔には尾道JCIの一員となった責任と期待にあふれ、とても印象的でした。

これからの皆さんの活躍が非常に楽しみです。

(記事：会員拡大委員会 石岡由光)

シニアクラブ

12月1日(木) 国際ホテルにてシニアクラブが開催されました。

尾道青年会議所シニアクラブ会長 高橋宏明先輩より心強いお言葉をいただきました。13名の卒業生が紹介され、シニアクラブへの入会に向けてお祝いをするともに、2023年度理事長 吉田雄太君の挨拶並びに正副事務局メンバーの紹介、決意を一言ずつ表明しました。

2023年は25年ぶりに中国地区コンファレンスを尾道青年会議所が主管させていただきました。現役会員一同一丸となって邁進してまいりますので、シニアクラブ会員の皆様におかれましても、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

ご多用中にもかかわらず貴重なお時間を頂戴し、ご参加いただきましたシニアクラブ会員の皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

(記事：2023年度セクレタリー 予定者 向井豪佑)



秋期 ゴルフ大会

11月19日(土) うずしおカントリークラブにて秋期ゴルフ大会が開催されました。

今回も多くのOB会員の皆様と現役メンバーの皆様にご参加いただき盛大に開催することができました。ご参加いただきました皆様、本当にありがとうございます。

当日は、天候にも恵まれ、OB諸先輩方、卒業予定者の皆さまと楽しくプレーをさせていただきました。

今大会の熾烈な優勝争いを制し、栄冠を掴まれたのは現役メンバーの中川裕智君でした。優勝者スピーチでは『来年は仕事、JC活動ともに全力で頑張ります!』と熱い言葉で締めくくられました。中川君、優勝おめでとうございます!



また、今回のゴルフ大会では、追い出しコンペということもあり、卒業予定者の皆様から賞品をご提供いただき、表彰式も和気藹藹とした雰囲気で行うことができました。卒業予定者の皆様、ありがとうございました。ご卒業されても、引き続きご参加いただけますと大変嬉しく思います!

次回は春に開催を予定しておりますので、皆様奮ってご参加をお願い致します。

卒業予定者の皆さまの、輝かしい未来へ、ホールインワン!

(記事：ゴルフ同好会会長 山本恭平)

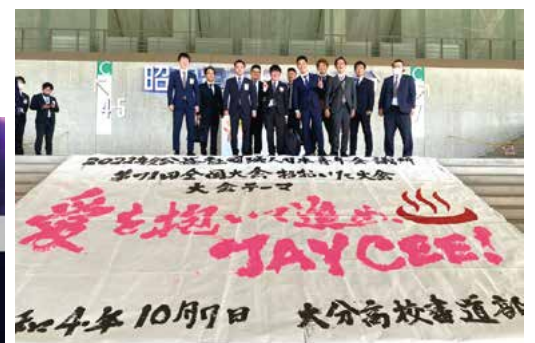
全国大会 おおいた大会

去る、10月7日(金)〜9日(日)に全国大会おおいた大会に卒業生7名を含む20名のメンバーで参加してまいりました。尾道青年会議所として大人数で参加するのは豪雨災害、台風、コロナウィルスの影響もあり2017年の埼玉中央大会以来5年振りとなります。

「愛を抱いて進め、JAYCEE!」と銘打たれ、10月8日(土)には昭和電工ドームにて大会式典及び卒業式が開催され8000人を超えるJAYCEEが集まり日本中の青年会議所メンバーにとって久しぶりの盛大な会になりました。

式典では第71代会頭中島土君の本当に力強い、愛の伝わるスピーチ、そして第72代会頭当選者である麻生将豊君の次年度に向けての挨拶が行われ、来年の東京大会への期待が高まりました。式典の後は白杵市にてLOMナイトで卒業生の皆様とメンバー一同で懇親を深めました。青年会議所という組織の大きさ、熱気を感じることのできる貴重な機会です。来年も多くのメンバーで東京に集まれたいと思います。

(記事：セクレタリー 安保大輔)



自然と共に 楽しいをつくらう アソビオ

11月13日(日)、私たち青少年育成委員会は「自然と共に楽しいをつくらう アソビオ」と題した事業を開催致しました。この事業は、近年子供たちが失っている自然に触れる機会を提供することで、子供たちが自ら考え、行動する力を育むことを目的としました。当日はあいにくの雨模様でありましたが、多くの子供たちと保護者の皆様に来場いただき、ツリーイング(専用のロープを使って行う木登り)体験や、木や藁などの材料を元にしたおもちゃやリース作りなど、ルーティーン化された日常ではできない体験をしていただきました。遊びの中で汚れる事や危ない事もありましたが、大人の方には声をかけることをこらえていただくことで、子供たちにはやりとげた達成感や失敗した悔しさを、大人の方には消えつつある自然で遊ぶことの尊さを感じていただけたと思います。この事業では、私たち委員会メンバーで会場となる里山を切り開き整備を行いました。当日来ていただきましたメンバーの皆様、そして会場作りにご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

(記事：青少年育成委員会 中司昌寛)



『#尾道フォトストーリー2022』

尾道青年会議所まちの未来創造委員会事業「#尾道フォトストーリー2022」を10月13日(木)～11月23日(水)にかけて写真投稿して頂きました。

「#おのフォト」が付いた投稿件数も約2,000件近く集まり、Instagramの事業用アカウントも652名の方にフォロー頂くことができました。

それぞれの投稿作品を見ても魅力的な尾道の風景やなかなか知られていない新たな尾道の魅力となるものを撮影されていたり、地元のお店の一押しグルメを投稿したり、コロナ禍で不安な中でも少しずつ前進している姿を投稿されていました。そして写真一枚一枚にそれぞれ投稿者の思いやまちでの思い出、未来に対する希望や不安など写真に対する思いを含めた上でグランプリなど受賞作品を選定するのは、非常に困難でした。



グランプリ：「黄色の電車が通る街」
作品名：sayejiac様



準グランプリ：「額縁から眺める尾道百景」
作品名：suno様

そして12月11日(日)には、尾道市長をはじめとする多くの来賓を招いての表彰式も行いました。

最後になりますが、今回の事業では他の委員会メンバーの皆様や尾道青年会議所のOBの先輩方からも投稿があり、本当に多くの方々の支えがあったことで無事事業を終えること出来ました。誠にありがとうございます。残り1年のJC生活で少しでも恩返しできるように精進してまいりますので、今後ともよろしくお祈りします。

(記事：まちの未来創造委員会 委員長 村上直弘)



尾道青年会議所特別賞：54_haruka様
作品名：『今日は帰ろうが言えず、夕日。』

願い事を叶えました

65周年記念事業では、8,134個もの願い事が集まりました！

その中から、1つ願い事を叶えるという企画を、実現しました！

おのみちバス株式会社様ご協力のもと、「バスの運転手になりたい」という願い事を書いてくれた3名の子供たちとそのご家族に普段は触れることのできないバス会社で行われている様々な体験をしてもらいました。

ご参加いただいた皆様、おのみちバス株式会社様、ありがとうございました！

(記事：65周年実行特別委員会 副実行委員長 加藤 雅崇)



2022年度委員会報告



65周年実行特別委員会 副実行委員長 加藤 雅崇

当委員会は、「新年例会」「記念式典」「記念事業」「クリスマス会」と4つの事業を軸に、1年間活動して参りました。

新型コロナウイルスの蔓延で、想定通りにいかないことばかりでしたが、実行委員長と委員会メンバーと、その度に考え、動き、必死に活動してまいりました。

記念式典では、多くの来賓、OBの方々にお祝いしていただき、シンプルでありながら力強い式典を行うことができました。

記念事業では、駅前広場に賑わいが生まれ、各種ステージや「尾道水道に星が走る」という初めての試みに、多くのまちの皆様の笑顔を見ることができました。

上手くいかないことだらけの1年間でしたが、現役メンバー、OB諸先輩方や、多くの街の方々を支えられて、1年間駆け抜けることができました。

これからも長きにわたり街のために活動出来るよう頑張ってまいります。

本当にありがとうございました。



総務広報委員会 委員長 村橋 聡

今年度はテーマ「年中夢求」のもとで、例会・総会の設営、JCライフの発行やホームページ、各種SNSの更新を行ってまいりました。委員長として力不足なところが多々あり委員会メンバーにたくさん迷惑をかけてしまいましたが、いつも支えていただき感謝の気持ちしかありません。

また本年度は会議運営の効率を上げるため日本青年会議所が推奨するアジェンダシステムの試験運用を行いました。何も分からない0からのスタートであったにもかかわらず、理事メンバーの皆様のご協力があり次年度からの本格運用に結び付けることができました。

そして最後に、1年間通じてJCライフの原稿の寄稿にご協力いただいたメンバーの皆様へ厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



共創まちづくり委員会 委員長 平岡 良之

本年度、初理事として祭委員会の委員長の職をお預かり致しました。一年を通して、尾道の伝統文化を継承することを目的として新年より委員会をスタート致しましたが、

まだまだ続くコロナによる影響で全てが自分の思うような形での開催ができたわけではありませんが、その中でも出来る設えを模索し活動して参りました。尾道青年会議所としてお付き合いをさせて頂いております三つの神社の皆様にも沢山のご協力を賜り、特に一宮神社の皆様には2月例会に始まり、本事業まで本当にお世話になりました。ただただ純粹に祭りを通じてまち豊かになればと起こした行動これら全てが先の世代へ受け継がれ、これからも尾道の一つの魅力として、財産として残っていくことを祈っております。最後となりますが、一年間、皆さまには多大なるご支援を頂きました。本当に有難う御座いました。私はあと2年で現役生活を終えますが、少しずつでもこのご恩をお返しすべく引き続き邁進してまいりますので、どうぞ宜しく御願ひ申し上げます。



まちの未来創造委員会 委員長 村上 直弘

まちの未来創造委員会の委員長を務めさせて頂きました村上です。

まずは、歌副理事長、そして加藤副委員長をはじめとする委員会メンバーの皆様には今年一年支えて頂きありがとうございます。そして尾道青年会議所メンバーの皆様のおかげで全ての事業を全うすることが出来ました。誠にありがとうございます。

今年一年を振り返ってみて、3月例会に始まり、ブロックアカデミー、9月例会、事業と非常に濃密な一年を経験させて頂きました。

ブロックアカデミーでは委員会メンバー全員で事業の構築、そして運営面では委員会の垣根を越えて尾道青年会議所現役メンバー全員の協力を得ることで責務を全うすることが出来ました。誠に感謝しております。ありがとうございました。

この経験を残り1年となったJC生活で少しでも還元していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



青少年育成委員会 委員長 半田 祐喜

この一年間は子供たちに何を伝えていけば良いのか、そして子育て世代の私たちはどのように子供たちをサポートしていくべきなのか。ということをはたすら考え続けました。家族会や例会、青少年育成事業を通して私自身、自分を見つめ直すきっかけにもなり、さまざまな気付きや学びを得ることができました。

何度も挫けそうになり、道を見失いそうになりましたが、委員会メンバーが想いを汲んでくれ、やりたいことが形にできるようアドバイスや意見をくれたおかげで、最後まで走り切ることができました。常に出席率も良く、本当に頼もしく誇らしいメンバーです。このチームが解散してしまうのは寂しいですが、みんなから貰ったものを今後のJC生活に活かし、次の世代に受け継いでいきたいと思っております。本当に楽しい委員長生活でした。ありがとうございました。



会員拡大委員会 委員長 沼尾 一

会員拡大委員会は、みんなで意見を出し合い、どのようにしたら拡大目標を達成するか、戦略を立てて進めてまいりました。最終的には目標人数の達成とはなりませんでしたが、9名の頼もしい仲間を迎え入れる事ができました。新入会員のキャラクターのわかる紹介ムービーを作りましたので、是非ご覧いただければと思います。今岡理事長をはじめとする理事会メンバーの皆さま、会員の皆さま一年間お世話になりました。



一月号の準備をしないといけないのに、全く要領が分らず慌てていた昨年の年末、委員長という職をこなせるのか不安でした。しかし委員会メンバーの仲間がこんな私を支えてくれたお陰で楽しい時間を過ごさせていただきました。あっという間に12月がきてしまい、いろいろあった6年間のJC生活が終わりに近づいています。卒業例会の担当委員長というのに卒業生であるために手がつけられず過ぎさないといけないさみしさと、卒業のさみしさを日を増すごとに感じています。委員長の拘りで、委員会メンバーにご無理をお願いし、もうみなさまもお気づきであるとは存じますが、この編集後記は左側を縦読みでご覧いただくと、1年間メッセージが浮かび上がるようにしてまいりました。いざチャレンジしてみると意外と難しく途中でやめようとなりにかけた際、歴の長い森川委員が悪しき伝統になるからやめようと言いながら渾身の力を披露してまさかの継続となりました。今年もコロナの影響で毎月ネタが無いと色々苦しんだJCLIFEでしたが、委員会メンバーが知恵を出し頑張ってくれました。来年も吉田理事長率いる尾道JCにご期待ください。(記事:村橋 聡)